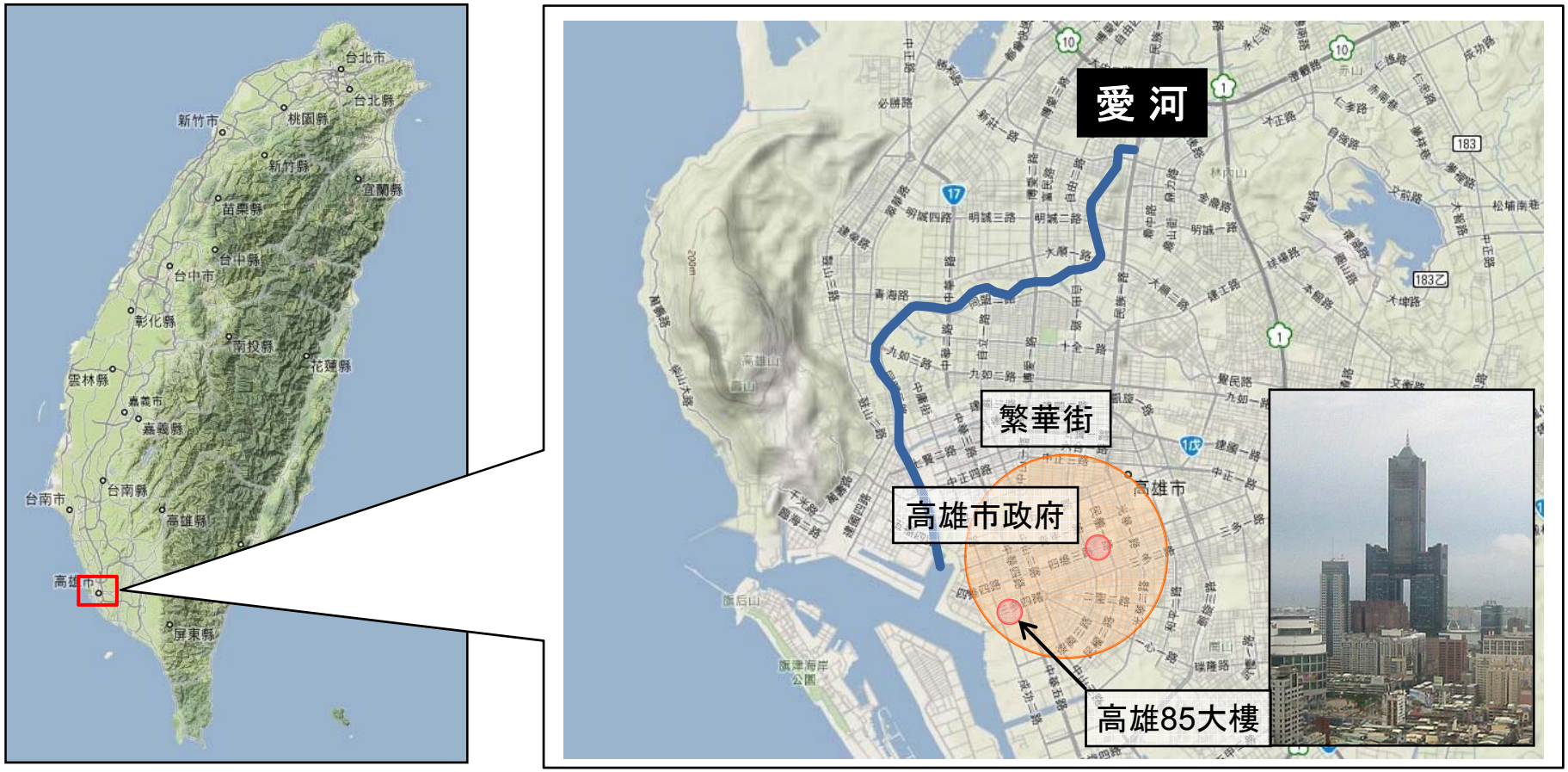
川を活かしたまちづくり事例視察
（in台湾　愛河）

参加者

団　長：山本　泰人（「水辺再生研究会」会長　/山本海苔店）
　　橋本　敬　（「水辺再生研究会」委員　/日本橋とよだ）
　　茂出木雅章（日本橋一丁目東町会会長 /たいめいけん）
　　赤岡　正博（日本橋ﾙﾈｯｻﾝｽ100年委員会/戸田屋商店）
　　畠山　隆史（日本橋ﾙﾈｯｻﾝｽ100年委員会/ｵﾌｨｽ・ﾄﾞｩ）
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ：伊藤　一正（「水辺再生研究会」学識者　/ﾘﾊﾞｰﾌﾛﾝﾄ整備ｾﾝﾀｰ）
　　竹内　耕司
事務局：篠生　政士
　〃　：森本　眞禎
　〃　：小友　剛

愛河(Love River)

■位置図



愛河

■河川概要

・延長：約12km

・流域面積：

約56km^2

愛河

■概要

・水位差少ない

▽干潮時：−0.2m

▽満潮時：＋0.7m

▽洪水時：＋1.8m

・流速遅い

→水の循環悪い

→藻の発生

日本橋川の概要

・干：−0.35m、満：＋2.1m
洪：＋3.5m程度

・流域下水道普及率：100%

・水質：DO　0.4mg/ℓ

■水質・水量

・市内下水道普及率
汚：53%、雨：97%

・DO：5～7mg/ℓ（除く夏）
3～5mg/ℓ（夏）

→生態系への悪影響

→ 改善 ⇒ 曝気船の運航

愛河

愛河

愛河

愛河

愛河

愛河

愛河

愛河

愛河

愛河

愛河

愛河

愛河

6. 愛河

愛河

■川を活かしたまちづくりへの取り組み

・水質の汚濁防止

⇒川に汚濁物質を排出する工場への対策
→80%の工場には水処理施設設置、20%は工場撤去
⇒下水道の普及
⇒曝気船

・ネットワークの構築

⇒水上バスとＭＲＴを組み合わせた交通ネットワーク
→併せて、博物館などの文化施設と商業施設の回遊性を創出
⇒水と緑のエコロジカル・ネットワーク

・市民参加

⇒河川公園などの管理は民間委託とボランティア

愛河

■都市計画･ビジョンへの組み込み

・都市計画への組み込み

⇒戦後復興時に広幅員道路、広い川岸空間を確保

・愛河を新時代の高雄の「顔」に

⇒市民・観光客に魅力のある国際都市を目指す

→景観改造：河畔の緑化、親水性確保、夜間照明による演出、沿川地域の再開発

→周辺の交通システムや社会・経済の活性化ともリンク

→イベントの開催（ﾗﾝﾀﾝﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ、ﾄﾞﾗｺﾞﾝﾎﾞｰﾄﾚｰｽなど）

→観光船、サイクリングロードにより周辺の歴史的建造物や文化・レジャー施設などをネットワーク化

愛河

■河川再生成功の理由（呉局長）

・市民の意識をどう改めるか

⇒高雄は海から発展し、川沿いに文化を形成してきた歴史があったことを再認識してもらい、歴史の中で川がいかに大切であったかを認識してもらった。

⇒他の都市の水辺景観を見てもらった。

■今後の計画（呉局長）

・目指す河川像

⇒市民が生活の一部として使える川、楽しめる川づくり

⇒他の河川で言えばフランスの「セーヌ川」

愛河にみる『日本橋川再生』のヒント

・河川の再生は都市基盤整備ではなくまちづくり

→周辺交通システム、サイクリングロード、観光船などの運航により社会、経済の活性化とリンクさせ都市計画の一環として位置付けて整備することが求められる。

・川とまちを結ぶ魅力的で潤いのある空間の創出

→プロムナード、植栽、船着場、照明などを工夫し、今回視察した河川のように「親しみやすい」「近づきやすい」「川沿いを歩いて楽しい」雰囲気を創り出すことが求められる。

・行政の強いリーダーシップによる推進と計画段階から維持管理までの一貫した市民参加